

実践内容		アンケート内容		4段階評価		平均	昨年	○成果 ●課題 □改善方策	学校運営協議会委員の評価・所見				
学習に関して	1 「わかる授業」実現のための指導方法工夫改善	■先生の授業は分かりやすいか。	生徒 3.3	3.1	3.2			○ 一人一研究授業では特別支援教育の視点や手立てを活用し、「ひなたの学び」を取り入れた授業を実施し、指導方法の工夫・改善に努め、指導力向上を図った。 ○ 2年生では論理コミュニケーション遠隔授業を体験し、論理的な思考方法を学ぶことができた。 ● 入学した時点で、学力の二極化が見られる。家庭での学習の見届けも必要と考える。 □ 主題研究で授業における『視覚的な資料提示』『1時間の流れ（メニュー）の提示』『単一指示』を全職員が全ての授業で行い、授業改善に取り組んでいる。	学習に関して ○ 近年、総合的な学習の時間などにおけるキャリア教育の実践が目立つ。昨年度の防災マップ作成や今年度のひなた場など、生徒の主体性を育み自己実現を図るとしても素晴らしい活動であると考える。来年度以降も継続的にひなた場のその後を見ていきたいと私も考える。総じて、昨年度より各段に評価が上がっていることはとても良いことである。 ○ 将来の自分の職業を考える機会を学校や家庭で多く設けることで、何のために学習するのかの意欲も高まると思う。 ○「視覚的な資料提示」「1時間の流れの提示」「単一指示」を全ての授業で行っておられるところで、特性を持つ子ども達にもわかりやすいような授業改善に取組んでおられるることは、全ての子ども達にとってプラスになると思う。 ● 家庭学習に関して低評価が目立つ。共働きや家庭的諸事情によりばらつきがあることが考察できるが、参観日等の学級懇談「家庭学習」について保護者にアプローチをしたか、またどのように（学習方法など）周知したかが気になるところ。 □家庭学習については、習慣づけが大切であり、いかに集中して学習に取り組むかは、保護者も自覚して、その環境づくりに努めるべきである。				
	2 目的意識を持った意欲的な学習の取組	■目的をもって、意欲的に日々の学習に取り組んでいるか。	生徒 2.9					○ 課題や家庭学習には概ね取り組めている。 ● 課題や自主的な家庭学習に取り組む習慣がなく、課題の提出ができない生徒が固定化している。 □ 第1学年のうちから高校のことや将来のことについて真剣に考えさせ、将来の目的を達成するために学習するというようなキャリア教育を実施していく必要がある。また、直近の目標として、高校入試の倍率や結果など具体的な内容を発信し、生徒や保護者に高校入試に対して意識を高めるような啓発も必要である。					
	3 自立した社会人・職業人の育成を目指すキャリア教育の推進	■目的をもって、意欲的に日々の学習に取り組むように声かけをしているか。	保護者 3.0					■自分事として将来の生き方を考え、将来の目標達成のために取り組んでいるか。	生徒 3.0	3.2	2.9	○ 総合的な学習の時間や学活の時間を活用して、職業調べや高校調べなどをを行い、各自でまとめた。外部の講師を招いて、仕事の内容、はたらく意義などについて話を聞くことができた。 ● 将来を考える取組はできたが、具体的な進路や進路実現に向けての努力をどうすべきか明確に考えることができない生徒も見られる。 □ 今後多くの職業人の考えに触れる機会を増やし、3年間を系統立てた進路学習の充実を図るとともに、保護者への啓発を行う。	
生活に関して	4 保護者の協力を得ながらの時間と守る態度の育成	■時間を守って学校生活を送っているか。	生徒 3.4	3.5	3.3			○ 授業開始の前に学習の準備を整えるなど、ほとんどの生徒は概ね時間を守っている。 ● 就寝時間が遅いなど、生活習慣の乱れから遅刻する生徒が固定化している。 □ 遅刻気味の生徒に関して、時間を守ることの意義を理解させ、生徒指導支援員と連携するとともに、家庭と協力しながら生活習慣の確立を目指していく。	生活に関して ○ 生徒会本部及び執行部に所属している生徒の意識が高いことはよい。 ○ほとんどの生徒は時間もルールも守ることができていることで、先生方のご指導の効果が出ていないのではないか？ 外から見た感じも概ね、生徒の生活態度は落ち着いて見える。 ● 活動内容によっては意識が低い生徒が居ることも事実である。対策として、私自身当時取り組んだ「生徒会の活動の見える化（生徒会だより/挨拶運動）」や「全校生徒を巻き込んだ校内活動」などがあると、他の生徒との意識共有などができる、より生徒会が身近な存在に感じると考える。 □「令和6年度全国学力・学習状況調査分析」における「話し合いを生かして努力しているか？」の改善に生徒会や係活動は必要不可欠であると考える。				
	5 保護者の協力を得ながらの基本的な生活習慣や態度の育成	■学校の約束（身なり・きまり）をしっかりと守っているか。	生徒 3.4					■学校の約束（身なり・きまり）をしっかりと守るよう声かけをしているか。	保護者 3.6	3.5	3.4	○ ほとんどの生徒は学校の約束を概ね守っている。 ● 服装容儀の乱れがあり指導することがあった。 ● 心配な状況の生徒に関して、関係機関とのケース会議を実施した。 □ 今後も校則等ルールの遵守については、ルールがある意味も考えさせながら指導していく必要がある。また、保護者の価値観も多様化しているが、家庭の理解と協力を得ながら啓発を行う。	
	6 生徒の主体的な活動を充実させ、積極的に取り組む態度の育成	■清掃・係活動・生徒会活動にきちんと取り組んでいるか。	生徒 3.4					■清掃・係活動・生徒会活動にきちんと取り組むよう声かけをしていますか。	保護者 3.0	3.3	3.5	○ 清掃は静かに活動できている。生徒会活動についてもあいさつ運動やクリーンウォークなど自主的に取り組む姿が見られる。 ● 生徒会執行部、専門委員会に所属している生徒の意識は高い。また、活発に係活動に取り組んでいる、生徒もいる。しかし、活動内容が具体的でない係は、活動への意識が低い生徒も見られる。活動内容を具体化することも課題である。 □ 今後も生徒会役員を中心に、生徒会主体の活動を活性化し取り組んでいく。リーダーとなる生徒の育成とともに、行事を通して生徒の団結と活力を高めていきたい。	
心と身体に関して	7 思いやの心と、人権感覚を身につけた実践力ある生徒の育成	■いじめ・嫌がらせ等、絶対許さない気持ちをもっているか。	生徒 3.6	3.6	3.5			■いじめ・嫌がらせ等、絶対許さないという声かけをしているか。	保護者 3.5	○ 講師を招いての人権講話（全学年対象）では、いじめは許されないことをはじめとした人間関係づくりについて話していただいた。また、7月の命を大切にする週間、12月の人権週間では、各学年の発達段階に応じた道徳の授業を実施した。 ● 毎月、学校生活アンケート、教育相談アンケート等に記入されていじめやいやがらせの訴えをもとに、指導・対応する場面があった。 □ アンケートをもとに、いじめ不登校対策委員会、生徒指導部会を実施し、組織的な対応を行っていく。また、教職員が生徒の様子を観察し、いじめ・不登校を未然に防止できるよう日常的に生徒の状況を共有していく。	心と身体について ○ あいさつについてですが、学校前の横断歩道を生徒さんが車に向かって一礼をして渡っているのは、思いやりのある心が育っていると感じた。 ○ いじめ、不登校が発生しないよう、発生しても最小限で抑えられるよう、先生方がきめ細かく努力しておられるのが伝わって来た。学校を訪問すると、すれ違う大抵の子ども達はよく挨拶をしてくれている。 ● 服装容儀の乱れはその時の生徒の心理状況でもあると思われ、危険信号を発していると考えられるため生徒の観察をお願いしたい。 □ 歯磨き等での健康を保つのは、そのまま感染症予防に繋がるのでそのあたりも含めて啓発していくといふのではないか？ □ 死ぬまで自分の歯で食事をしていくのは健康を維持していく上で重要である。歯の早期治療を引き続き推奨して欲しい。 □ いじめや嫌がらせが根絶できると良いのですが、生徒への観察を引き続きお願いしたい。		
	8 時と場に応じた態度であいさつできる生徒の育成	■進んであいさつができるか。	生徒 3.5					■進んであいさつをするよう声をかけているか。	保護者 3.5	3.5	3.3	○ 礼法指導やあいさつについて、年度当初にしっかりと確認し、今年度も集会形式で礼法指導をきちんと行うことができた。 ● 自分からきちんとあいさつができることを目標として指導を行ったが、一部の生徒には徹底させることができなかった。 □ 生徒会の活動を支援しながら、様々な場面であいさつの意義や重要性を理解させ、自分から積極的なあいさつを行うことを常に意識できるようにする。	
	9 健康の増進と体力の向上に意欲的に取り組む生徒の育成	■歯の治療や日頃の体調管理など健康に過ごせるようにしているか。	生徒 3.4					■歯の治療や日頃の体調管理など健康に過ごせるよう声かけをしているか。	保護者 3.6	3.4	3.3	○ 保健安全部が主導し、熱中症対策や感染症の予防対策を徹底した。インフルエンザの流行が見られたが、学級閉鎖の措置等をとるまでの罹患数はなかった。 ● 歯の治療については、養護教諭が、「ほけんだより」での啓発をはじめ、歯磨きクラブや部活動単位での治療率調査等、様々なアプローチをしているがなかなか大きく治療率が上がらない。また、スマートフォンをはじめとする各メディアの長時間利用により、睡眠時間が十分でない生徒も見られる。 □ 今後も、熱中症対策や感染症の対策をとっていく。感染症拡大の傾向が見られたら、部活動を中止し休養を十分とらせる等の措置など、学校として出来ることを継続していく。	
関家庭してに	10 保護者と協力しながら、情報機器の使用について考え、正しい実践力の育成	■家庭で情報機器(PC、スマホ、TV等)の使用について約束事を決め守っているか。	生徒 3.0	3.0	2.6			■家庭で情報機器(PC、スマホ、TV等)の使用について約束事を決め、守るよう声をかけているか。	保護者 3.3	○ 情報教育については、情報モラル学習や日常的な指導などで啓発を行った。 ● SNS上での不適切な書き込みが、学校での生徒間のトラブルの原因になり、指導することが複数あった。 ● スマートフォンの利用時間が自分や家庭でコントロールできない事例も見られた。 □ 専門家を招いての講話等、外部講師を活用するなどの機会を設ける。	家庭に関して ○ SNSが発達した昨今、情報モラル学習などの啓発教育を行ったことでもいいことであると考える。些細なコメントが感じ取る人によっては、それが言葉のナイフになる意識を持ってSNSと共にしていくことが重要である。 ● 学校でスマートフォンの持ち込みを禁止している以上、使い方の全責任は家庭にあると思うが、ネット空間での人間関係が学校に持ち込まれることで、先生方も気苦労が絶えないのではないか。 ● 情報教材が発達しながら「情報機器使用の指導を行っているか」のアンケート結果が、低い状況にある。現在、どのように活用されているか、またメリット及びデメリットについて詳細を知りたいところである。		
	11 地域と協力しながら、地域貢献に意欲的に取り組む生徒の育成	■地域をよくするために何をすべきか考えているか。	生徒 2.7					■地域をよくするために何をすべきか考えているか。	保護者 2.5	2.7	2.6	○ 延岡中美術科作品展を通して、保護者の方だけでなく、地域の方にも見ていただく機会になった。 ○ 市などが募集するボランティア活動を通して、地域に貢献する生徒も多数みられた。 ● 地域についての学習は総合的な学習等で行っているが、自分の住んでいる身近な地区で活動する機会が少ないことも、数値の低い原因である可能性もある。 □ 生徒の活動の様子が分かるような活動を計画したり、ホームページ上で校内での活動の様子の公開したりするとともに、生徒会の活動であるクリーンウォークデイなど地域の美化活動等も継続していく。	地域に関して ○ 美術作品展はとても画期的な企画であり、生徒の自己実現や達成感と併せて地域との繋がりを考えても得るものが多い企画になったのではないかと考える。 ○ 主催する子ども食堂に、毎年延中の生徒さんがボランティアに来られるが、皆さん、素直でよく動いてくれて助かっている。 □ 自治会や市内のイベント団体（私も活動しています）などと連携することにより「ナナメの関係」との繋がりや学習指導要領に示すところの「社会に開かれた学校づくり」に直結するものであり、生徒たちのキャリア教育及び金融教育と結びつけることも可能であると考察する。